



通訳道場  
YOKOHAMA CATS



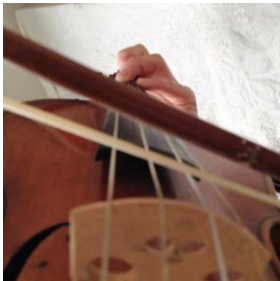
撮影：北ウェールズ、ベスグレイトにて

## 「あんなふうに弾きたい」目標設定が空振りになるとき

「いつまでもまるで進歩しない」と家族にも呆れられて数十年のバイオリン。幼く聞こえるのは弓が安定しないのも一因でした。でも安定させようと心がけて練習しても一向に安定しない。

それが、思いがけないことで突破口が開けたのです。これはきっと語学にも通じるはず！

「まだ弓の半分、3分の1の感覚が身体に入っていませんね。」あるレッスンで先生は弓に目印のシールをつけてくださいました。



それからしばらくは左手はおやすみの開放弦。弓を見ながら右手だけでその目印ぴったり止まる練習。

目を開いて弾いて半分で止まる。目を閉じて弾いて半分と思ったら止まって目を開ける。ずれていたら目を開けてやり直し。また目を閉じる。1/3も同じこと。

えんえんと、これだけで30分なんてしょっちゅう。安定、不安定のことなんて忘れてます。ちっとも飽きません。

何が楽しいのかって？別に楽しいと知っていたからやってみただけではありません。やってみたら楽しかった！夢中になった！覚めた瞑想のようでした。

そのうち不思議と弾いている感じがなくなりました。何もしていないとしか言えない感覚になって…そして…ん？弓がびたりと安定している。それは不安定だったころには想像しようのない感覚。

どういうわけであれほど不安定だったのに安定したのか、頭で考えてもわかりません。でも身体はもう納得している。身体は頭よりアタマがいいって本当。

この感覚を知らない以前の私が「あの感覚がほしい」と設定することは不可能。

語学も同じことですよ。

「できる前には『あれができるようになる』という目標設定をすることができません。『あれ』が身体実感として存在しないんですから。そのような部位があり、そのような働きをすることはかつて一度も思わなかった部位が、現に活発に働いているのを実感するときに、修業の意味は事後的・回顧的にわかります。ですから修業がもたらす成果を、修業開始に先立ってあらかじめ開示することは不可能なのです。」（「修業論」内田樹著 光文社）

通訳道場★横浜CATS

<https://ycats.linguamusica.jp> または <https://linguamusica.jp>

## 【通訳道場メンバー紹介】福島を英語で語れる若者を — 渡部友紀さん

「あの人がいって言うなら間違いない」って信頼されるひといるでしょう？2期の渡部友紀さんはまさにそんな人。本物を選ぶ感性が素晴らしい！いつも自然とつながりながら、ひとを想って選んでいるのでしょうか。だから友紀さんの手を通して伝わるものはあたたかい。学生時代からキャンプリーダーとしてご活躍、今は故郷の子どもたちに「英語を教えるふりをして心を育てている」とお見受けします。福島のご家業「家具と家の相談屋さん」La Vida（ラビーダ・郡山市）では経理と英語をご担当。家づくり、家具づくりは「自然と人の幸せを探る総合芸術」とするポリシーには、震災以降ますます多くのファンが共鳴しています。友紀さんと私の願いは「福島の心を英語で語れる、地元の方言で思いをわかちあえる通訳を育てる」こと。福島は明治初期から若松賤子女史（フェリス1期）、斎藤勇先生、齋藤和明先生と献身的な翻訳者、英文学者を輩出。福島で通訳道場を開くときはラビーダさんのテーブルと椅子で、と決めています。



【La Vidaさん 公式サイト】 [www.lavida.co.jp](http://www.lavida.co.jp)

## 終わるのが辛すぎて始めるのが怖い?! 翻訳愛が再燃 — 西岡妙子さん

横浜のシュタイナー幼児教育界の有名人、西岡妙子さん。お子さんたちとの日常をつづるFB投稿はシュタイナー関係では異色の痛快、サバサバ、抱腹絶倒爆笑モノ。頭の回転抜群です。完成度の高い手仕事作品でも有名で、「Umiのいえ」では手仕事講座をご担当。不器用だったなんて信じられません。以前のお仕事は音楽業界で特許関係の翻訳。立派なプロだったのです！1期修了後、翻訳への愛が再燃しているようで…愛あるところに仕事が降ってくるんです。まずはアントロポソフィー医療関係の文献、そして今度は発達障がいのある女の子たちのためのプログラム。冒頭の恋愛のような名言は「夕食準備の時間になると翻訳をいったん終わりにしてPCを閉じなくてはならないのが辛い。それほど好き」の意。しかも好きだけじゃなく「社会貢献を念頭に自分の人生を経営する」視点で取り組んでくれます。さすが、マーケティング、経営を吉見範一さん、嶋崎喜一さんに学び続けているだけのことはあります。安心して頼める心強いチームメイトに感謝です！

【妙子さんブログ イイコ・イイコ・シュタイナー教育と手仕事】

<https://ameblo.jp/fine-tuned/>

## 【おススメ】ゴールのわからない未知のトラックを微かな予感に導かれて走る



私は英語教師時代も「英語の先生」と呼ばれると違和感を覚える変な先生でした。英語教育業界は「楽しく」学べて将来「役に立つ」というインセンティブだらけでなじめなかったのです。だいいち「褒賞」にそそのかされて身につくものなどたかが知れています。私の学びは…いつも美しいものとの突然の出会いに驚き、憧れを掻き立てられ、憧れと一致しようと自分を書き換えてきた…役に立つかどうかなんて考えたこともありません。それは他者が決めること。楽しいかどうか自己点検したこともない。目標設定より予感、直観。僭越ながら内田樹先生の「修業論」は心の友です。武道、キリスト教学校、ヨーロッパ的言語感覚が共通点かしら。6月半ばに直にお話を伺う機会に恵まれたのも嬉しいことでした。

— 「修業して獲得されるものというのは、修業を始める前には意味不明のもの…」

「修業論」内田樹 光文社新書 (8ページ まえがきより)